

東日本高速道路株式会社 北海道支社  
支 社 長 堀 圭一

## 質問書に対する回答

(工事名) 道東自動車道 東占冠トンネル工事

### 質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	土木工事等単価ファイルについて  入札日が 4 月 1 日ですが、設計単価は土木工事等単価ファイル_令和 6 年度 (令和 6 年 4 月) 版によるのでしょうか。  また、その場合単価ファイルは事前に公表していただけるのでしょうか。	土木工事等単価ファイルは、令和 6 年 3 月版を採用予定です。
2	特記仕様書_P1 について  工事概要には、間接工事費率適用区分が記載されておりませんが、C 計測設置・撤去等で通行止めが予定されていることから「2 車線以上（片側 1 車線以上）かつ断面交通量が 5,000 台／日以上に該当しない車道において車線変更を促す規制を行う場合の工事（常時全面通行止めの場合を含む）」に該当すると考えてよろしいでしょうか。	施工地域区分及び間接工事費率適用区分については、令和 6 年 3 月 15 日掲載予定の参考積算条件書に記載致しますので、そちらをご確認ください。
3	設計図トンネル 図番 34/171、35/171 について  C I -K-S2 断面、C II -K-S2 断面、D I -K-S2 断面の材料表にそれぞれ記載されている厚さ 50mm と 100mm の吹付コンクリート (18N/mm <sup>2</sup> ) の計上箇所について、数量明細表（参考）番号 133, 134, 135 には t = 250 mm (36N/mm <sup>2</sup> ) の規格のみ表記されていますが、この項目に含まれているのでしょうか。  異なる場合は計上箇所をご教示願います。	吹付コンクリート B (t=5cm) C I -S2 は吹付コンクリート B (t=5cm) C I -S1 に 13.3 m <sup>2</sup> 、吹付コンクリート B (t=5cm) C II -S2 は吹付コンクリート B (t=5cm) C II -S1 に 12.8 m <sup>2</sup> 、吹付コンクリート B (t=5cm) D I -S2 は吹付コンクリート B (t=5cm) D I -S1 に 12.5 m <sup>2</sup> 計上されます。

番号	質問事項	回 答
4	<p>参考図 4 /40_工事工程表（参考図）について</p> <p>D IIIa-S(H)-B-F の区間には AGF 工 L=12.5m が 3 シフト有りますが、AGF3 シフトの合計時間を、坑口部の延長を除いた L=35.35m で除して 1m 当たりの AGF 時間を加算してサイクルタイムを計算すると平均月進は 34m となります。</p> <p>工程表に記載されています 30m/月の算出根拠をご教授願います。</p>	D IIIa-S(H)-B-F 区間の平均月進は 34m となります。
5	<p>割岩工法穿孔パターンについて</p> <p>設計図および参考図には割岩掘削の穿孔パターン図が示されておりません。</p> <p>図面を示していただけるか、各パターンごとのボアホールとスリット数をご教示願います。</p>	<p>割岩掘削の穿孔パターンごとの数量は以下のとおりとなります。</p> <p>【C I・C II 断面】ボアホール：157 本、スリット：52 本  【D I 断面】ボアホール：157 本、スリット：53 本</p>
6	<p>避難連絡坑について</p> <p>避難連絡坑の発破掘削部のホイールローダサイドダンプ共用損料については、土木工事積算基準では側壁導坑の場合計上とありますが、工程表では本坑掘削完了の後に連絡坑の掘削となっていることから、ホイールローダ共用日損料は計上されていると考えてよろしいでしょうか。</p>	特記仕様書 28-14-1 トンネル掘削に含まれます。
7	<p>工期末について</p> <p>交付図書②【工事概要】で工期は、契約保証取得の翌日から 2,130 日間で 71 ヶ月となります。</p> <p>令和 6 年 4 月 (2024) から開始とすると工期末は令和 12 年 2 月 (2030 年) となります。</p> <p>また、交付図書⑭【工事工程表】では、令和 13 年 (2031 年) 2 月までの工事となっています。</p> <p>工期末が 1 年異なりますが、2,130 日で工期末となると考えてよろしいでしょうか。</p>	2460 日間が正となります。

番号	質問事項	回 答
8	適用する積算基準は、令和5年度版でよいか、ご教示願います。	R5年度版の積算基準を採用しております。
9	<p>時間外による補正、交代制による補正で使用する構成比（K）は、令和5年3月から適用される公共工事の割増対象賃金比を使用すればよいかご教示願います。</p> <p>それ以外の場合、具体的なKの値をご教示願います。</p>	<p>貴社のご判断に基づき費用を計上願います。</p> <p>なお、当社のK値（構成比）については、土木工事積算基準に記載のとおりです。</p>
10	本工事での経費工種区分は「トンネル」、「トンネルと他工種」のいずれを採用されているか、ご教示願います。	適用工種については、令和6年3月15日掲載予定の参考積算条件書に記載致しますので、そちらをご確認ください。
11	物価資料等の採用月は入札月（2024年4月）を採用されると考えてよいかご教示願います。	物価資料等は、令和6年3月版を採用予定です。
12	<p>公表された01_東占冠TN詳細設計_「第3編 施工計画・仮設備計画書」p.5-6のサイクルタイム表において、DI-L(H)-Bのロックボルト打設時間T1がP1×6+10で計算されているように思われます。</p> <p>予定価格算出に当たってはP1×7+10で算出してよろしいでしょうか。</p>	土木工事積算基準をご確認ください。
13	<p>公表された01_東占冠TN詳細設計_「第3編 施工計画・仮設備計画書」p.5-6のサイクルタイム表において、早期閉合のインバート吹付け、埋戻しは確認できますが、掘削・ずり搬出と支保工建込み時間、損失・その他が考慮されていないように思われます。</p> <p>予定価格算出に当たっては考慮されているのか、ご教示願います。</p>	<p>01_東占冠TN詳細設計_「第3編 施工計画・仮設備計画書」p.5-6のサイクルタイム表において、インバート仮埋戻しの跡片付けは支保工建込み時間を想定しています。</p> <p>また、損失・その他は一連のサイクルで計上しており、個別での計上は想定しておりません。</p>

番号	質問事項	回 答
1 4	<p>公表された 01_東占冠 TN 詳細設計_「第 3 編 施工計画・仮設備計画書」p. 5-6 のサイクルタイム表の掘削サイクルタイムの計算において、例えば DII-a-S1(H)-B のインバート仮埋戻しの時間 10+32+10 とその合計である 52 がダブル計上されていると思われます。</p> <p>積算ではダブル計上しないという認識でよいか、ご教示願います。</p>	ご認識のとおりです。
1 5	早期閉合の仮埋戻しの時間算出式をご教示願います。	貴社の施工計画に基づき費用を計上願います。
1 6	本工事の地山分類は、第 3 級の C、第 3 級の D には該当しないという認識でよいか、ご教示願います。	ご認識のとおりです。
1 7	<p>公表された 01_東占冠 TN 詳細設計_「第 4 編 数量計算書 4/16」p. 2-1-14～18 において、掘削数量の計算で用いる X3、X4 のインプット数量は小数第 1 位と定められていますが、検測掘削数量および積算掘削数量は小数第 3 位までの断面積を使って算出しています。</p> <p>予定価格算出に際しての積算掘削数量は、小数第 1 位までの断面積の数量を使って算出していると考えてよろしいでしょうか。</p>	積算掘削数量は小数第 3 位で算出しています。
1 8	<p>公表された 01_東占冠 TN 詳細設計_「第 4 編 数量計算書 6/16」p. 2-1-75 のインバート埋戻し工において、D I -a(H)-B の控除（横断管）の断面積は 1. 344 ではなく、1. 394 が正しいと思われます。</p> <p>積算では 1. 344 を使った数量を用いるという認識でよいか、ご教示願います。</p>	1. 394 が正となります。

番号	質問事項	回 答
19	<p>公表された 01_東占冠 TN 詳細設計_「第 4 編 数量計算書 5/16」p. 2-1-58 のロックボルト工において、C I -L(H)-B の単価項目が B(L=4.0m、耐力 170KN 以上) とされていますが、図面より C(L=4.0m、耐力 290KN 以上) となると思われます。どちらが正しいか、ご教示願います。</p>	<p>06. 01. 11 訂正公告 2 正誤表 (1) のとおり、C I -L(H)-B の単価項目は C(L=4.0m、耐力 290KN 以上) となります。</p>

番号	質問事項	回答
20	<p>割掛対象表参考内訳書1/5、特記仕様書P18,63 仮設材等運搬費（トンネル）の数量内訳（参考）欄には、往復という記載がございませんが、運搬は片道と考えてよろしいでしょうか。</p> <p>また、特記仕様書には撤去までの記載で、残存物件の処理に関する事項にも記載がございませんので、スクラップ処理も避難連絡防護工の項目で計上するとしてよろしいでしょうか。</p>	ご認識のとおりです。
21	<p>仮設材等運搬費（仮設構造物工）の数量内訳（参考）欄には、往復という記載がございませんが、運搬は片道と考えてよろしいでしょうか。</p> <p>また、特記仕様書には撤去までの記載で、残存物件の処理に関する事項にも記載がございませんので、スクラップ処理も仮桟橋撤去工の項目で計上するとしてよろしいでしょうか。</p>	<p>仮設材等運搬費（仮設構造物工）の運搬方法は以下を想定しています。</p> <p>購入材：片道、リース品：往復</p> <p>また、購入材のスクラップ処理は仮桟橋撤去工に含みます。</p>
22	特記仕様書P46 受圧板Bの面積、0.17m <sup>2</sup> と記載されておりますが、寸法や重量が正しいとしますと、0.42m <sup>2</sup> の誤植と考えてよろしいでしょうか。	0.42 m <sup>2</sup> が正となります。
23	<p>特記仕様書P60(2)支払2)の3行目に、「本線盛土箇所までの運搬」と記載がございますが、この言葉にかかっている語句が、前の文章を精査しても判断できません。</p> <p>「掘削切羽から本線盛土箇所」の意である場合は、ずり処理工A1と同じものになります。</p> <p>2) ずり処理工A2の支払について、解釈をご教示願います。</p>	ずり処理工A2は、掘削切羽から一線沢仮置場へ運搬し、仮置きしたのち本線盛土場まで運搬するものとなります。

番号	質問事項	回答
2 4	<p>【特記仕様書 P. 66】 仮設目隠し板工 A と B は、共に残置させると考えてよいですか。</p>	ご認識のとおりです。
2 5	<p>【特記仕様書 P. 66】 仮設目隠し板の移設に伴い発生する、目隠しネット他の材料ロスは想定されていますか。</p>	想定しておりません。
2 6	<p>【設計図 のり面工 9/27】 設計図 2 号補強土壁工 構造図(2)数量表に示された、構造物掘削数量は 1310. 4m<sup>3</sup> です。 一方、数量明細表の 2 号補強土壁工の構造物掘削数量は 1039. 6m<sup>3</sup> で、設計図と異なります。 数量が異なる理由をご教示願います。</p>	1310. 4m <sup>3</sup> が正となります。
2 7	<p>【単価表 番号 51 補強土壁工 基盤排水層】 単価表 番号 51 の補強土壁工 基盤排水層の単位は m<sup>2</sup> ではなく m<sup>3</sup> ではないでしょうか。 また、設計図の表に記載の基盤排水層の単位も m<sup>2</sup> ではなく m<sup>3</sup> ではないでしょうか。 閲覧資料 補強土壁工の数量計算書では、横断図から m<sup>3</sup> の数量が計算されており、設計図・単価表の数量はこの計算書の数量と一致しています。</p>	m <sup>2</sup> 検測となります。 なお、t=500 mmとなります。

番号	質問事項	回 答
2 8	<p><b>【金抜設計書 番号 188】</b></p> <p>単価表 番号 188 「はく落防止対策工 B」は、既設ボックスカルバートの内部およびウイング部に施工用の足場を必要としますが、割掛参考内訳書の足場工(明かり部)C-Bx312.2 空 m3 に、この分の数量が含まれておりません。</p> <p>足場の費用は「はく落防止対策工 B」の単価表に含めると考えてよいですか。また、足場の種類には固定足場と移動足場がありますがどちらの条件を想定されていますか。</p>	<p>割掛参考内訳書 足場工費に含まれます。</p> <p>また、足場の種類は移動足場でトラック架装リフト（デッキ旋回・ブーム型）4日を想定しています。</p>
2 9	<p><b>【設計図 工事用道路 23/88】</b></p> <p>設計図「仮桟橋 A 一般図」の側面図、杭の寸法に( )カッコ書きの数値があります。</p> <p>この数値が何を示しているのかご教示願います。</p>	<p>カッコ書きの数値は誤記となります。</p>
3 0	<p><b>【特記仕様書 P. 68, 69】</b></p> <p>設計図 工事用道路 仮桟橋 A, C, E(工事用道路 23、72、85/88)では支持杭に「ダウンザホールハンマ工法+砂充填+バイブロ工法」の記載があります。</p> <p>一方、特記仕様書 28-21 仮設構造物工(4)施工において、仮桟橋 A、C、E の支持杭の施工方法は「ダウンザホールハンマ工法+砂充填」とあり、バイブロ工法の記載が除かれています。</p> <p>このため設計積算は、特記仕様書の条件(バイブロ工法を使用しない条件)を想定していると考えてよいですか。</p>	<p>特記仕様書 28-21 仮設構造物工の仮桟橋 A、C、E のとおり、「ダウンザホールハンマ工法+砂充填」となります。</p>

番号	質問事項	回答
3 1	<p>【設計図 工事用道路 67/88】</p> <p>仮桟橋 B 設計図(67/88) 右の数量表に記載される支持杭打設の欄において、バイブロ工法 L=1.00m、10 本、バイブロ工法 L=2.00m、20 本の記載があります。</p> <p>これらは、橋脚 KP3 と KP2 の支持杭の打込長と本数と考えられます(一般図 44/88)、図面では KP3 が L=4.00m、10 本、KP2 が L=6.00m、20 本と読み取れます。</p> <p>数量表と設計図のどちらを正として積算すればよいですか。</p>	<p>KP3 : L=5.00m、10 本、KP2 : L=6.00m、20 本が正となります。</p>
3 2	<p>【トンネル設計図 118、119/171】において「補強鉄筋表」が記載されておりますが、「数量表」には鉄筋数量の記載がありません。</p> <p>補強鉄筋施工の有無をご教示願います。</p>	<p>補強鉄筋の数量は 3.638t です。</p> <p>数量明細表における鉄筋 A (T) の数量は 528.527 t が正となります。</p>
3 3	<p>構造物掘削特殊部 A の鋼矢板は打設のみ、あるいは打設・引抜きのどちらでお考えでしょうか。</p> <p>施工区分、材料区分(賃料・中古)、クレーン運搬費など詳細条件をご教示下さい。</p>	<p>鋼矢板III型は、上部 500 mmを切断し残置となります。</p> <p>施工区分については特記仕様書 28 - 2 - 3 に記載のとおりで、材料は中古品となります。</p> <p>クレーン運搬費は割掛計上となり、クローラクレーン 50～55 t 級：1台 - 1 往復となります。</p>
3 4	<p>数量明細書、構造物掘削普通部の軽量盛土工 640.4m<sup>3</sup> は、付帯工図 6/9 に記載がありません。</p> <p>土質種別・数量区分、埋戻し数量など詳細をご教示下さい。</p>	<p>軽量盛土工の構造物掘削は以下が正となります。</p> <p>構造物掘削 普通部 B : 土砂 491.9m<sup>3</sup>、軟岩 129.9m<sup>3</sup></p> <p>構造物掘削 普通部 C : 軟岩 18.6m<sup>3</sup></p>
3 5	<p>数量明細書、構造物掘削普通部の 2 号補強土壁工が 1.039.6m<sup>3</sup> となっていますが、のり面工図 9/27 では 1,310.4m<sup>3</sup> となっています。</p> <p>どちらが正でしょうか。</p>	<p>1,310.4m<sup>3</sup> が正となります。</p>

番号	質問事項	回 答
3 6	構造物掘削普通部で発生する軟岩掘削は、発破あるいはブレーカ掘削のどちらでお考えでしょうか。	軟岩掘削は発破を想定しています。
3 7	<p>構造物掘削普通部 B の 765.0m<sup>3</sup> は「終点側坑門構造物掘削基礎部及び軽量盛土部の土砂及び軟岩の掘削」との記載がありますが、一致する図面が見当たりません。</p> <p>この箇所にあるものと考えて算出するのでしょうか。</p> <p>詳細土質区分・数量、埋戻し数量などご教示下さい。</p>	<p>構造物掘削 普通部 B の合計数量は 735.0m<sup>3</sup> が正となり、内訳は以下のとおりとなります。</p> <p><b>【軽量盛土工】</b></p> <p>構造物掘削 普通部 B : 土砂 491.9m<sup>3</sup>、軟岩 129.9m<sup>3</sup></p> <p><b>【明り部・坑門工（終点側）】</b></p> <p>構造物掘削 普通部 B : 土砂 113.2m<sup>3</sup></p>
3 8	<p>構造物掘削普通部 C の 2,429.0m<sup>3</sup> は「終点側坑門構造物掘削基礎部及び軽量盛土部の土砂及び軟岩の掘削」との記載がありますが、一致する図面が見当たりません。</p> <p>この箇所にあるものと考えて算出するのでしょうか。</p> <p>詳細土質区分・数量などご教示下さい。</p>	<p>構造物掘削 普通部 C の合計数量は 2,429.4m<sup>3</sup> が正となり、内訳は以下のとおりとなります。</p> <p><b>【軽量盛土工】</b></p> <p>構造物掘削 普通部 C : 軟岩 18.6m<sup>3</sup></p> <p><b>【明り部・坑門工（終点側）】</b></p> <p>構造物掘削 普通部 C : 軟岩 2,410.8m<sup>3</sup></p>
3 9	工事用道路①②③の盛土において、工事初期段階に自工区から盛土材を調達できませんが、大量の不足土砂等は、特記 P74 の（6）の変更及び追加と考え、一線沢仮置場からの調達あるいは他工区からの受け入れ等とのお考えでしょうか。	工事用道路①②③の盛土数量は、率計上項目の盛土工 A5（購入材）となります。

番号	質問事項	回 答
4 0	<p>①仮桟橋 C の数量集計表に、掘削 1,484.9m<sup>3</sup> と埋戻し 1,428.7m<sup>3</sup> とあります が、記載数量通り基礎部分を掘削、仮置き、桟橋施工後、埋戻しでお考えで しょうか。</p> <p>②掘削土質種別と数量をご教示下さい。</p> <p>③軟岩掘削は発破、ブレーカのどちらを想定でしょうか。</p>	<p>①ご認識のとおりです。</p> <p>②土砂：1,122.3m<sup>3</sup>、軟岩：362.6m<sup>3</sup></p> <p>③軟岩掘削は発破を想定しています。</p>
4 1	<p>①仮桟橋 D の数量集計表に、掘削 199.2m<sup>3</sup> と埋戻し 176.7m<sup>3</sup> とありますが、 記載数量通り基礎部分を掘削、仮置き、桟橋施工後、埋戻しでお考えでしょ うか。</p> <p>②掘削土質種別と数量をご教示下さい。</p> <p>③もし軟岩掘削がある場合は発破、ブレーカのどちらを想定でしょうか。</p>	<p>①ご認識のとおりです。</p> <p>②軟岩：199.2m<sup>3</sup></p> <p>③軟岩掘削は発破を想定しています。</p>
4 2	工事用道路図 P78/88 仮桟橋 D の集計表記載の大型どのうは、耐候性土のう (3年) でお考えでしょうか。	ご認識のとおりです。
4 3	軽量盛土工配合表の気泡剤が 1.06kg/m <sup>3</sup> となっていますが、土木工事積算基 準 34-2-3 では 1.30 kg となっています。 配合表通りのお考えでしょうか。	特記仕様書に記載のとおりです。

番号	質問事項	回答
4 4	【設計図 32/171、34/171】に「C I - K - S 1 (C I I - K - S 1 · C I - K - S 2 · C I I - K - S 2) パターンの1掘進長は、1. 0 mとするが、システムボルトの延長方向における打設間隔は標準に基づくものとする。」との記載がありますが、吹付けコンクリートの施工は、1掘削長に準ずるとの理解で良いですか。	ご認識のとおりです。
4 5	【設計図 79/171】に「裏面排水工B（避難連絡坑）」の材料表が掲載されていますが、【単価表】及び【数量明細表（契約項目）】に項目が見当たりません。「裏面排水工A」に含めて良いですか。	裏面排水工Bを追加します。 裏面排水工Bの数量は 248.6m となります。
4 6	【数量明細表（契約項目）】トンネル掘削「C I - B - S · C I I - B - S · D I - B - S」の数量に扉部が考慮されていると考えて良いですか。	<p>扉部の数量は以下の単価項目の数量に含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トンネル掘削 C I - B - S</li> <li>・ トンネル掘削 C II - SB - S</li> <li>・ トンネル掘削 D I - B - S</li> <li>・ トンネル掘削 C I - K - S1</li> <li>・ トンネル掘削 C II - K - S1</li> <li>・ トンネル掘削 D I - K - S1</li> </ul>
4 7	【数量明細表（契約項目）】吹付けコンクリート工「C I - B - S · C I I - B - S · D I - B - S」の数量に扉部が考慮されていると考えて良いですか。	<p>扉部の数量は以下の単価項目の数量に含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吹付コンクリート B (t=5cm) C I - S</li> <li>・ 吹付コンクリート B (t=10cm) D I - S</li> <li>・ 吹付コンクリート B (t=5cm) C II - S - S</li> <li>・ 吹付コンクリート B (t=5cm) C I - S1</li> <li>・ 吹付コンクリート B (t=5cm) C II - S1</li> <li>・ 吹付コンクリート B (t=10cm) D I - S1</li> </ul>

番号	質問事項	回 答
4 8	<p>【参考図】に「割岩掘削 穿孔パターン図」が見当たりません。</p> <p>C I - K - S 1 ・ C I - K - S 2 ・ C I I - K - S 1 ・ C I I - K - S 2 ・ D I - K - S 1 ・ D I - K - S 2 における各断面パターン図を示して頂けないでどうか。</p>	<p>割岩掘削の穿孔パターンごとの数量は以下のとおりとなります。</p> <p>【C I ・ C II 断面】 ボアホール：157 本、スリット：52 本 【D I 断面】 ボアホール：157 本、スリット：53 本</p>
4 9	<p>【単価表】及び【数量明細表（契約項目）】に吹付けコンクリート B (<math>t = 5 \text{ cm}</math>) C I - S 2 ・吹付けコンクリート B (<math>t = 5 \text{ cm}</math>) C I I - S 2 ・吹付けコンクリート B (<math>t = 10 \text{ cm}</math>) D I - S 2 の項目が見当たりません。どの項目に含めれば良いですか。</p>	<p>吹付コンクリート B (<math>t=5\text{cm}</math>) C I -S2 は吹付コンクリート B (<math>t=5\text{cm}</math>) C I -S1 に <math>13.3 \text{ m}^2</math>、吹付コンクリート B (<math>t=5\text{cm}</math>) C II -S2 は吹付コンクリート B (<math>t=5\text{cm}</math>) C II -S1 に <math>12.8 \text{ m}^2</math>、吹付コンクリート B (<math>t=5\text{cm}</math>) D I -S2 は吹付コンクリート B (<math>t=5\text{cm}</math>) D I -S1 に <math>12.5 \text{ m}^2</math> 計上されます。</p>
5 0	<p>【金抜設計書 B-6 頁】において「番号 67 コンクリート C2-1(T)」の数量は <math>10,751 \text{ m}^3</math> と記載されています。</p> <p>この数量は本坑インバートコンクリートのみの数量で避難連絡坑床版コンクリートの数量 <math>106.7 \text{ m}^3</math> が計上されていないと思われます。</p> <p>床版コンクリート数量計上の有無をご教示願います。</p>	<p>床版コンクリート数量が未計上であったため、数量は <math>10,858 \text{ m}^3</math> が正となります。</p>

番号	質問事項	回答
5 1	<p>盛土工 A4 使用材料は特記 17-1 盛土材等に規定され最大寸法 300 以下とされています。</p> <p>施工場所は切土下部路床の下に <math>t = 10 \text{ cm}</math> (標準横断図) となっていますが、問題ないでしょうか。</p>	<p>300 は最大寸法を示すものであり、施工箇所に応じて材料選定のうえ施工願います。</p>
5 2	<p>盛土工 A4 数量を設計計算書から確認したところ、切土下部路床の下 <math>t = 10 \text{ cm}</math> 部だけの数量と考えます。</p> <p>特記 28-2-2 盛土工に記載されている溝渠部凍上抑制層(図面表示: BOX 中詰め材、BOX 上部層、外側埋戻し材)については、どのように計上すればよいでしょうか。</p>	<p>BOX 中詰め材と BOX 上部層は盛土工 A4 となり、<math>602.2 \text{ m}^3</math> が正となります。</p> <p>外側埋戻し材は裏込め工 B で計上願います。</p>
5 3	<p>特記 28-4 軽量盛土工において(6)支払い項目内に「防護柵基礎工等」と記載がありますが、設計図 6/9においては、(率計上項目)と表記されています。</p> <p>この単価には「防護柵基礎工」は計上せず「パネル基礎工」を計上するでよろしいでしょうか。</p>	<p>防護柵基礎工は軽量盛土工には含まれておらず、率計上項目となります。</p> <p>なお、基礎コンクリートは軽量盛土工 壁面工 A に含まれます。</p>
5 4	<p>補強土壁工 3 号: 基礎フーチング工、4 号: 調整コンクリート工の費用はどの単価項目に計上すべきでしょうか。</p>	<p>3 号補強土壁工の基礎フーチング工は、補強土壁工 帯鋼補強土壁 B に含まれます。</p> <p>4 号補強土壁工の調整コンクリート工は、補強土壁工 帯鋼補強土壁 C に含まれます。</p>
5 5	<p>各構造物掘削の費用積上げにおいて、数量を土軟岩に分け計上する必要があります。</p> <p>数量計算書、図面では確認できません。</p> <p>関係する資料等をご提示ください。</p>	<p>各構造物掘削の土質種別や数量区分に関する資料は訂正公告にて提示いたします。</p>

番号	質問事項	回 答
5 6	<p>構造物掘削 特殊部 A の区分内容において「1、仮設土留め工の設置」とあり撤去の記述がありません。</p> <p>土留め工は、引き抜かず残置でよろしいでしょうか。</p>	上部 500 mmを切断し残置となります。

番号	質問事項	回 答
5 7	<p>確認になりますが、質問書①番号 16 で『基盤排水層、水平排水層、のり尻工のそれぞれの材料について、以下(1) (2)のいずれであるかご教示下さい』という質問に対して『購入材の使用を想定しています』と回答されていますが、基盤排水層及び水平排水層も購入材を使用するということによろしいでしょうか。</p>	ご認識のとおりです。
5 8	<p>【設計図 附帯工 1/9 及び 2/9 1 号高盛土排水工詳細図(1) (2)】</p> <p>詳細図(1)の数量表に、構造物掘削 普通部、埋戻し、敷網工 A があり、構造物掘削と埋戻しが同数であることから、構造物掘削後敷網工を設置し、掘削した箇所を埋め戻すものと考えますが、詳細図(2)では敷網工は基盤排水層内に埋設されています。</p> <p>このため、埋戻しはできないと思いますが、埋戻し土を本線に流用することによろしいでしょうか。</p>	<p>ご認識のとおり、残土は本線に流用することを想定しています。</p> <p>なお、1 号高盛土排水工及び 2 号高盛土排水工の掘削数量、埋戻し数量は下記のとおりとなります。</p> <p><b>【1 号高盛土排水工】</b> 掘削数量 : 2, 304. 3m<sup>3</sup>、埋戻し数量 : 2, 079. 0m<sup>3</sup></p> <p><b>【2 号高盛土排水工】</b> 掘削数量 : 7, 813. 1m<sup>3</sup>、埋戻し数量 : 7, 035. 5m<sup>3</sup></p>
5 9	<p>【数量明細表(参考)構造物掘削、設計図 附帯工 軽量盛土工】</p> <p>数量明細表に、軽量盛土工の構造物掘削の数量が 640. 4m<sup>3</sup> となっていますが、設計図の軽量盛土工では掘削範囲が確認できません。</p> <p>軽量盛土工の掘削図面の提示をお願いします。</p>	図面を修正いたします。

番号	質問事項	回答
6 0	<p>【特記仕様書 P33 構造物掘削 普通部 B 及び C】</p> <p>特記仕様書 構造物掘削(1)種別の普通部 B 及び C の区分内容が両方とも『終点側坑門工構造物基礎部及び軽量盛土部の土砂及び軟岩の掘削』となっていますが、掘削位置・範囲が不明のため、土砂と軟岩の数量が不明です。</p> <p>また、普通部 B:765m<sup>3</sup>、普通部 C:2,429m<sup>3</sup> の根拠も不明です。</p> <p>掘削図面及び数量計算書の提示をお願いします。</p>	<p>構造物掘削 普通部 B 及び普通部 C の数量は以下が正となります。</p> <p>【軽量盛土工】</p> <p>構造物掘削 普通部 B : 土砂 491.9m<sup>3</sup>、軟岩 129.9m<sup>3</sup></p> <p>構造物掘削 普通部 C : 軟岩 18.6m<sup>3</sup></p> <p>【明り部・坑門工（終点側）】</p> <p>構造物掘削 普通部 B : 土砂 113.2m<sup>3</sup></p> <p>構造物掘削 普通部 C : 軟岩 2,410.8m<sup>3</sup></p>
6 1	<p>【設計図 のり面工 9/27、17/27、21/27】</p> <p>設計図の数量表内の笠木コンクリート工(コンクリート B1-3)の数量が未計上で、単価項目がございませんが、新たに単価項目が追加されるのでしょうか。</p>	<p>特記仕様書 28-8 に記載のとおり、笠石コンクリート工は補強土壁工に含まれます。</p>
6 2	<p>【特記仕様書 P66 28-20 仮設目隠し板工】</p> <p>仮設目隠し板工の撤去の有無</p> <p>(5)支払に『仮囲い鋼板の設置・撤去等』とありますので、仮設防護柵の上に設置する仮設目隠し板 A は工事終了後に撤去することでよろしいでしょうか。</p> <p>同様に土工部に設置する仮設目隠し板工 B も工事終了後に撤去することでよろしいでしょうか。</p> <p>撤去する場合、撤去費用はどの単価項目に計上すればよろしいでしょうか。</p> <p>また、材料費(損料・賃料)は、どの単価項目に計上すればよろしいでしょうか。</p>	<p>仮設目隠し板 A 及び B に撤去は含みません。</p>

番号	質問事項	回答
6 3	<p>【割掛対象表参考内訳書 1/5 仮設材運搬費(仮設構造物工)】</p> <p>割掛対象表参考内訳書の仮設材運搬費(仮設構造物工)に工事用仮桟橋で使用する仮設材の運搬費が計上されていますが、構造物掘削 特殊部や仮設防護柵工及び仮設目隠し板工にも仮設材運搬が必要になりますが、関連する単価項目にその費用を計上してよろしいでしょうか。</p>	<p>構造物掘削 特殊部は割掛計上となり、クローラクレーン 50～55 t 級：1 台 - 1 往復となります。</p> <p>仮設防護柵工及び仮設目隠し板工は関連する単価項目での計上となります。</p>
6 4	<p>【割掛け対象表参考内訳書 3/5 足場工】</p> <p>割掛け対象表参考内訳書の足場工に C-Bx、置換え基礎、抱き擁壁が計上されているが、それら以外にも軽量盛土工、コンクリートブロック積み工、補強土壁、はく落対策工 B に足場が必要になりますが、関連する単価項目にその費用を計上してよろしいでしょうか。</p>	<p>補強土壁は割掛け参考内訳書 足場工費に含まれており、足場の種類はプラケット足場で 279m を想定しております。</p> <p>はく落対策工 B は割掛け参考内訳書 足場工費に含まれており、足場の種類は移動足場で トラック架装リフト (デッキ旋回・ブーム型) 4 日を想定しています。</p> <p>その他の項目は、貴社の施工計画に基づき費用を計上願います。</p>
6 5	<p>【滝の沢工事用道路数量計算書、特記仕様書 P32 道路掘削】</p> <p>滝の沢工事用道路の盛土の処分方法</p> <p>数量計算書では、約 21 千 m<sup>3</sup> の盛土が必要としていますが、この盛土の処分先が不明のため、存置と考えてよろしいでしょうか。</p> <p>また、滝の沢工事用道路への盛土材は、道路掘削 土砂 A 及び軟岩を使用することになっていますが、道路掘削 土砂と軟岩の数量を足しても 9.6 千 m<sup>3</sup> しかなく、盛土材が不足しますが、土砂の調達方法についてご教授願います。</p>	<p>滝の沢工事用道路で使用する盛土で使用する材料は、率計上項目の盛土工 A5 となります。</p> <p>工事用道路は、現時点では存置を想定しております。</p>

番号	質問事項	回 答
6 6	<p>【特記仕様書 P50 コンクリート A1-3(T)】</p> <p>コンクリート A1-3(T)の数量に坑門工のインバートが含まれていますが、坑門工はすべて繊維を混入するものと考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>坑門工のインバート部は繊維入りではないため、コンクリート A1-3 の数量は 916.8m<sup>3</sup> となり、コンクリート A1-3 (T) の数量は 247.0m<sup>3</sup> となります。</p>
6 7	<p>【特記仕様書 P25 建設副産物の活用等】</p> <p>建設副産物の活用方法等が『再資源化施設へ搬出(有償)率計上』とありますが、運搬費及び処分費ともに率計上と考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>ご認識のとおりです。</p>
6 8	<p>【特記仕様書 P67 仮設構造物工】</p> <p>区分内容に H 型鋼による支持杭の撤去とあります。</p> <p>直接コンクリート基礎の取壊しは率計上のため、不要と考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>ご認識のとおりです。</p>
6 9	<p>【設計図 トンネル 167/171 避難連絡坑防護工図、割掛対象表参考内訳書 1/5 仮設材等運搬費(トンネル)】</p> <p>割掛対象表参考内訳書 1/5 仮設材等運搬費(トンネル)には『避難連絡坑防護工で使用する仮設材の運搬費』とありますが、図面ではリースできる部材は H-150×150×7×10 (L=10.0m) の 1 本のみで他は購入材になると考えますが、この場合、H-1500×150×7×10 のみの運搬費を計上することになるのでしょうか。</p>	<p>避難連絡坑防護工で使用する仮設材については、購入材と考えているため、すべて運搬費を計上しています。</p>

番号	質問事項	回 答
7 0	<p>【設計図】道東自動車道 東占冠トンネル工事.pdf の 9/14 付替道路のり面展開図(2)の真ん中あたりのスパンで、8535mm に対応する法枠延長が空欄になっています。</p> <p>数量をご教授ください。</p>	8.8mとなります。
7 1	<p>【金抜設計書】2P には工期 2130 日間とあります。</p> <p>この工期だと竣工は令和 12 年 2 月ですが、【工事工程表】では令和 13 年 2 月中旬までとなっています。</p> <p>工期は 2130 日 +365 日でしょうか。</p>	2460 日間が正となります。

番号	質問事項	回答
7 2	<p>【参考 数量明細表 構造物掘削 普通部 B、普通部 C、特記仕様書 P33】</p> <p>参考数量明細表における、それぞれの土砂量、765m<sup>3</sup>、2429m<sup>3</sup> は番号 13 番明かり部・坑門工の 2524m<sup>3</sup> と二重計上にはなっていないでしょうか。</p> <p>終点側構造物とは、具体的に何を示しているのでしょうか。</p>	<p>参考数量明細表の番号 13 明かり部・坑門工の 2524m<sup>3</sup> は二重計上となっており、構造物掘削 普通部 B 及び普通部 C の数量は以下が正となります。</p> <p>【軽量盛土工】</p> <p>構造物掘削 普通部 B : 621.8m<sup>3</sup>、普通部 C : 18.6m<sup>3</sup></p> <p>【明かり部・坑門工（終点側）】</p> <p>構造物掘削 普通部 B : 113.2m<sup>3</sup>、普通部 C : 2,410.8m<sup>3</sup></p> <p>終点側坑門工構造物は置換えコンクリート、坑門工が対象となります。</p>
7 3	<p>【参考 数量明細表 構造物掘削 普通部、特記仕様書 P33】</p> <p>同様に、参考数量明細表における、番号 17 工事用道路 滝の沢の構造物掘削 普通部土量 312.3m<sup>3</sup>、番号 18 滝の沢付替道路の構造物掘削 普通部土量 1592 m<sup>3</sup>、構造物は具体的に何を示しているのでしょうか。</p>	<p>番号 18 工事用道路 滝の沢の構造物掘削 普通部は、道路掘削 土砂 A が正となります。</p> <p>番号 19 滝の沢付替道路の 1,592m<sup>3</sup> は誤りで、番号 4 軽量盛土工の構造掘削 普通部 B 621.8m<sup>3</sup>、普通部 C 18.6m<sup>3</sup> が正となります。</p>

番号	質問事項	回 答
7 4	トンネル工事における建設機械は、豪雪補正の対象になるのでしょうか。	積算に関する質問についてはお答えできません。
7 5	高盛土排水工 敷網工A,Bについて見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。	積算に関する質問についてはお答えできません。
7 6	軽量盛土工 FCB工について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。	積算に関する質問についてはお答えできません。
7 7	受圧板A,Bについて見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。	積算に関する質問についてはお答えできません。
7 8	コンクリートブロック積工 大型コンクリートブロック積み控190cmAは、見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。	積算に関する質問についてはお答えできません。
7 9	ドレンかご工について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛け算出しているのでしょうか。 施工歩掛け算出している場合は、引用先をご教示願います。	積算に関する質問についてはお答えできません。
8 0	継目工 IV型について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛け算出しているのでしょうか。 施工歩掛け算出している場合は、引用先をご教示願います。	積算に関する質問についてはお答えできません。

番号	質問事項	回 答
8 1	<p>凍上対策工について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。
8 2	<p>トンネル掘削 SB 制御発破について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。
8 3	<p>トンネル掘削 K 避難連絡工 割岩掘削について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。
8 4	<p>鋼製アーチ支保工 S1 (6 ピース) について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。
8 5	<p>計測工 B 吹付コンクリートの応力測定及び鋼製アーチ支保工の応力測定について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。
8 6	<p>避難連絡坑防護工について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛け算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。
8 7	<p>避難連絡坑防護工について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛け算出しているのでしょうか。 施工歩掛け算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。

番号	質問事項	回 答
8 8	<p>動態観測工について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。
8 9	<p>仮設防護柵工について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。
9 0	<p>仮設目隠し板工について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。
9 1	<p>プラント冬季養生費について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛で算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。
9 2	<p>汚濁水処理設備冬期養生費について見積採用でしょうか。 それとも施工歩掛で算出しているのでしょうか。 施工歩掛け算出している場合は、引用先をご教示願います。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。

番号	質問事項	回 答
9 3	<p>特記 28-12-2 コルゲートパイプ「支払い」に既設吐き口の取壊し、新設吐き口の設置が含まれていますが、各箇所のどのコルゲートパイプ項目に含めるのか確認できません。（<math>t = 2.7</math> 又は <math>3.2</math> か）</p>	<p>コルゲートパイプカルバートの施工内容は下記のとおりとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>1R - \phi 1.50 \cdot t=2.7</math> (A) 延伸パイプカルバートの施工及び既設吐口を改良するもの。</li> <li>• <math>1R - \phi 1.50 \cdot t=2.7</math> (C) 延伸パイプカルバートを施工するもの。</li> <li>• <math>1R - \phi 1.50 \cdot t=3.2</math> (A) 延伸パイプカルバートの施工及び吐口を新設するもの。</li> <li>• <math>1R - \phi 1.50 \cdot t=3.2</math> (C) 延伸パイプカルバートの施工及び吐口の新設、既設吐口を改良するもの。</li> <li>• <math>2R - \phi 1.50 \cdot t=2.7</math> (C) 延伸パイプカルバートの施工及び吐口の新設、既設吐口を改良するもの。</li> </ul>
9 4	<p>特記 28-13-1 C2-1 (T) 内容「インバートコンクリートに使用」 摘要「インバートコンクリート及び避難連絡坑床版」と記載されています。</p> <p>契約数量 <math>10751m^3</math> はインバートコンクリート他に床版コンクリート <math>106.7m^3</math> があると考えます。</p> <p>床版コンクリートをこの単価にて計上してよろしいか、ご教示ください。</p>	<p>インバートコンクリートには、避難連絡坑床版コンクリートの数量が含まれ、<math>10,857.6m^3</math> が正となります。</p>

番号	質問事項	回答
9 5	<p>数量総括表内に4号補強土壁工 A=55.0m<sup>2</sup>が計上されています。</p> <p>この型枠数量は、どこから計上されたのでしょうか。</p> <p>型枠はありますが、対応のコンクリートがありません。</p> <p>また、軽量盛土工 A=15.4m<sup>2</sup>は、率計上の防護柵基礎工 調整コンクリート工の数量が含まれていると考えます。</p>	<p>この型わくの数量は、対応のコンクリートも含め帶鋼補強土壁Cに含まれているため、誤計上となります。</p> <p>軽量盛土工 15.4 m<sup>2</sup>には、率計上項目の防護柵基礎工 調整コンクリート工 7.0 m<sup>2</sup>が含まれているため、軽量盛土工 8.4 m<sup>2</sup>が正となります。</p>
9 6	<p>型わくT(S)の単価表数量 1307m<sup>2</sup>は、数量計算書 避難連絡坑 3-1-35 のバラセントル数量ですが、扉部 88.2m<sup>2</sup>はどのように計上するべきか、ご教示ください。</p>	<p>バラセントルの扉部箱抜き型枠 88.2 m<sup>2</sup>は割掛項目の箱抜工費に含まれます。</p> <p>なお、割掛対象表参考内訳書に示す箱抜き部型枠は 783.0 m<sup>2</sup>が正となります。</p>
9 7	<p>令和5年度版土木工事積算基準1-9 頁【第1編総則 3. 工事費の積算(4)】において「積算価格は、原則として、入札時（入札書提出期限日）における市場単価」と記載されています。</p> <p>本工事は令和6年4月1日が入札書提出期限となっております。</p> <p>「土木工事等単価ファイル」および「北海道支社管内 土木工事設計材料単価表」は令和5年10月改訂版、令和6年4月改訂版のどちらを採用しているのかご教示願います。</p>	<p>土木工事等単価ファイルは、令和6年3月版を採用予定です。</p> <p>材料価格等については、令和6年3月15日掲載予定の参考積算条件書をご確認ください。</p>